

[持続と破綻を分けるものは何か] — 中部山地の場合

(大勢として維持されたのはなぜか)

■ 山地資源利用を分析する前提＝森林資源の多様性

→ それにもとづく多職性
(自給性と商品性を併せ持つ)

木 … 建築材 (構造材・部材)
… 木工品
… 燃材 (薪・木炭)
… 薬種 (木皮等)
… 食料 (果実)
… 肥料 (枝葉)
… 資材 (結束材・紙原料等)
草 … 肥料
… 食料 (山菜)

… 資材 (屋根材・壁材)
茸類… 食料
鳥獣… 食料
… 鷹狩用鷹
… 薬種 (熊の胆)
… 生活資材 (皮革)
魚 … 食料
土地… 農耕用地 (焼畑等)

■ 「持続させようとする動き」と「破綻を厭わない動き」とのせめぎあいのプロセスと捉える（それが時代性と連関）

山地資源にわたっての環境破壊（破綻）とは

- ①根本的 → 山からの森林の消失（破綻）… 〈例〉皆伐・はげ山化
- ②部分的 → 特定動植物の消失… 〈例〉針葉樹材の伐り尽くし

①の根本的な破綻の問題を整理するには…

- 破綻させる動き…大規模・産業的資源利用者が主(外部的資本などの投入)
- 持続させようとする動き…小規模・自家商売的資源利用者（持続が前提）

との対立を軸に整理してみる

<①の根本的な破綻に向かう圧力と地域の対応>

- 享保の巢鷹山争論
 - 周辺地域（西北）からの伐採圧力 地元からの訴訟・歎願によって排除
 - 幕府主導の大規模伐採計画 （巢鷹山制度等の利用）
 - 18世紀後半～19世紀の気候変化→飢饉（木の実・雑穀共に実らぬ年も）
→ 一部の集落は廃絶（「飢饉で滅亡」と言われるが…？）
- └─他集落への統合？（山領域の不足？）

<②の部分的環境破壊（地域内）の事例と対応>

- 焼畑の拓き尽くし（大秋山村と矢櫃村が争論）→ 双方の妥協で解決
（幕府の権威を利用）
- 針葉樹の枯渇 → 広葉樹の利用へシフト

根本的破壊…排除
部分的破壊…解決

→
森林環境そのものを維持しないと生活できない
地元の者たち(小規模自家商売的資源利用者)による保全

近代の秋山 ……劇的变化は訪れず（集落周辺の山は「原始的」な共有状態）

一部に水田が現れる。養蚕も。

現代の秋山

高度成長前……木工・材木・焼畑・狩猟・採集等 + 稲作・養蚕・観光業

焼畑の減少 → 植林地の増加

山林 → 集落所有から一部個人所有へ

高度成長後……1960年代から生活様式が激変（テレビ・洗濯機・炊飯器等、^{燃料革命}）

生業 → 焼畑の停止と稲作の本格的開始・観光業の伸び
・ 給料取り増加

戦後の林業ブームの時代はどうだった？

現在……世帯の収入や仕事二年金・自営業（民宿・商店）・給料とり

山地利用の不活性化 → 環境の維持（積極的改変なし）

○林業の低迷（植林地はそのまま）

○細々と木工・自家用燃材採り、但し自家商売の茸・山菜採りは盛ん

秋山の近現代には

森林の皆伐圧力など壊滅的な環境改変の動きは見られない？

→ 自家商売的レベルでは多様性に基づく資源利用を維持



山地環境保全の必要（山あってこそその生活）は継続

〔類似の分析例 – 手賀沼の事例〕

手賀沼地域…近現代に至って環境の大改変（10年連続の湖沼汚染度ナンバーワン）。

＝ 現代に至っての「破綻」

従来は周囲の住宅開発などの要因で説明 → 不十分

沼とともに生活してきた現地の人々の無関心化 → 環境の大改変（前代には水田化も）
沼と密着した生活文化体系の喪失 → 沼の汚染を座視 → 極度の汚染へ
やはり地元民が「維持しよう」「残そう」とするかどうかが重要

東北地方の場合の視点（白水が三戸さんのお話を参考に勝手に考えてみた…）

「持続と破綻を分けるものは何か」－東北山地の場合 （太平洋側）

■東北地方太平洋側山地を分析する前提＝夏期の寒冷気候
→ それにもとづく畑作

ヤマセによる夏期の寒冷気候が頻発

（東北地方でも日本海側〈秋田県側〉は米作適地）

→ 冷害が稲作に壊滅的な影響 → 悲惨な飢饉の続発

→ 多様な雑穀の栽培が飢饉の危機回避の重要な要因となる

■ 「持続させようとするとする動き」と「破綻を厭わない動き」とのせめぎあいのプロセスと捉える（それが時代性と連関）

東北太平洋側地域にとっての破綻とは（環境に合わせた生活の破綻）

- ① 根本的 → 気候に適した作物からの転換による飢饉
- ② 部分的 → ？

①の根本的な破綻の問題を整理するには…

破綻させる動き…盛岡藩による米作の強制（権力による不適切な政策）
持続させようとするとする動き…稲作不適な山地であることを主張しての米代替

貢献の要請

との対立を軸に整理してみる

<①の根本的な破綻に向かう圧力と地域の対応>

○幕藩体制下でのコメ主体システム

○盛岡藩によるコメ貢納の強制

○

平野部・盆地部は米作を受け入れ

→ その結果飢饉の続発

山地帯は米作を拒否できた？

→ 飢饉時にも対応可能

近現代に入って…

平野部・盆地部…コメの品種改良（耐冷害・耐病虫害性の強化）

栽培技術の改良

雑穀の復活・その他適地生業の展開

で対応

東北地方太平洋側山地の環境

権力の強制による不適な米作強制？

→ 山地の独自性強調によって強制を免れる？

→ 背景には山地に適した多種雑穀の栽培・熊の胆などによる代替貢納

（山地の生活文化に適した生業体系を維持しようとする動き）